

でも思い出します。

国内では、太平洋戦争後、戦争は起きてはいないものの、世界を見ると今もお苦しんでいる人たちが多くいます。

戦争の経験は決して今の子どもたちにはしてほしくありません。

その一方で、戦争の記憶、体験した人たちの思いは自分の子どもや孫、後世の子どもたちについていかなければならないと感じています。

遺族会の一員として できること

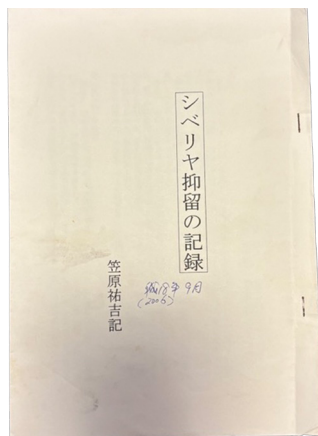
私は今、東秩父村遺族会の会長をさせていただいています。

東秩父村に限らず、大切な家族や友人を戦争で亡くされた方が多くいらつやいます。

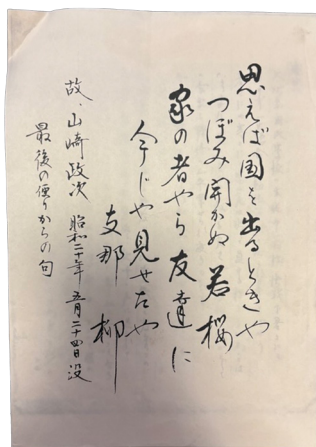
その方々の思いを語り部として次世代に伝え、また、それを伝えていく遺族会の活動も継続していきたいと考えています。

私は遺族会の一員として、今後も戦争を知らない世代のために活動していきます。

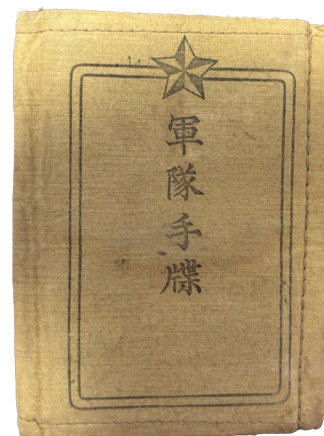
このような物も残っています



ロシアのシベリアで拘留された村民の方が残した当時の記録



戦争への思いや心境を綴った句をまとめた書



実際に使用していた軍隊手帳

毎年3月には、戦没者追悼式が開催されます



この式典は、先の大戦で亡くなられた東秩父村出身の方々を追悼し、平和への誓いを後世に継承するという思いから開催されています。
(写真:令和6年3月19日(火) 戦没者追悼式の様子)